

父親の育児参加が 母親、子ども、父親自身に 与える影響に関する文献レビュー

加藤承彦

国立成育医療研究センター・社会医学研究部

論文情報：加藤承彦, 越智真奈美, 可知悠子, 須藤茉衣子, 大塚美耶子, & 竹原健二. (2022). 父親の育児参加が母親, 子ども, 父親自身に与える影響に関する文献レビュー. 日本公衆衛生雑誌, 21-040

リンク : <https://doi.org/10.11236/jph.21-040>

父親の積極的な育児への関わりは、 母親、子ども、父親自身にどのような影響を与えるのか？

• 方法：
文献レビュー（和文&英文
学術雑誌）

• 分析対象論文：
和文 22編
英文 4編

• 曝露要因：
父親の育児への関わり

• アウトカム：
母親のメンタルヘルス等
子どもの発達等
父親のQOL等

• 結果：

<母親への影響>

父親が積極的に育児に関わっている場合、母親の育児幸福感や育児満足感が高かった

<子への影響>

幼少期の子どもの怪我や肥満の予防や第二子・第三子の生まれやすさと関連していた。

<父親自身への影響>

知見が少ないため、明確な結論が得られなかった。

• 男性の育児休業取得の促進や、男性産後休暇の制度が整備されていく中で、男性の育児への関わりに対して、社会の関心がより高まると予想される。

• 今後、研究を実施する上で「父親の育児への関わりをどのように評価していくのか？」に関して、議論を深める必要がある。

背景

- 近年、父親の積極的な育児への関わりに社会の関心が高まりつつある。
- しかし、父親が積極的に育児に関わることで、母親、子ども、父親自身にどのような影響があるのか、あまり明らかになっていない。

目的

- 日本国内で実施された研究において報告されている父親の育児への関わりに関する研究の知見についてまとめる。
 - 国内学術誌（和文）に報告されている知見は、2010年以降
 - 海外学術雑誌（英文）に報告されている知見に関しては、数が少ないため2000年以降

方法

検索対象のデータベース：

医学中央雑誌、JSTPlus、JMEDPlus、Pubmed（英文）

キーワード：

「乳幼児関連」 「父関連」 「育児関連」

「Father or paternal」 「childcare or co-parenting or involvement」

方法（レビュー対象の絞り込み①）

423編の父親の育児参加に関する和文論文



→ タイトルと要旨から402編を除外

21編について、本文を取り寄せ、レビューの対象となるか評価



→ 4編を除外

- 対象となる子どもの年齢が未就学以上を含む(n=1)
- 父親の育児参加がアウトカムの研究(n=2)
- 父親の抑うつと子どもの発達の間を分析(n=1)

17編の論文



別のソースから特定した5編を追加

22編の論文

方法（レビュー対象の絞り込み②）

370編の父親の育児参加に関する英文論文



タイトルと要旨から364編を除外

6編について、本文を取り寄せ、レビューの対象となるか評価



2編を除外

- 父親の育児参加がメインの暴露要因ではなく共変量であったもの(n=1)
- 父親の育児参加がアウトカムの研究(n=1)

4編の論文

結果 1 母親への影響

- 父親が積極的に育児に関わっている場合、母親の育児幸福感や育児満足感が高かった。
(明野ら,2010 ; 森永ら,2015 ; 鍋島ら,2015 ; 熊野ら,2017 ; 池田ら,2018)
- 母親の夫婦関係満足感とも関連していた。
(桐野ら,2011 ; 大関ら,2013 ; 瀧本ら,2019)
- 父親の育児への関わりに対する母親の満足感が低い場合、母親の育児困難感や負担感、主観的虐待感が高い傾向が見られた。
(森永,2010 ; 藤岡ら,2013 ; 井上ら,2014)
- 母親（妻）とのコミュニケーションの重要性も示唆された。
(小島ら,2010 ; 桐野ら,2011 ; 森永ら,2015)

結果 2 子どもへの影響

- 父親の積極的な育児への関わりは、

幼少期の子どもの怪我や肥満の予防 (Fujiwaraら,2010 ; Satoら,2020)

朝食を一緒に食べる頻度 (会退ら,2011)

第二子や第三子の生まれやすさ (加藤ら,2018)

子どもの良好な発達 (藤岡ら,2013 ; Chengら,2009)

に関連していた。

結果 3 父親自身への影響

- 父親の積極的な育児への関わりが、父親自身へ与える影響に関してはあまり顕著な傾向は見られなかった。
- 子どもへの対応にストレスを感じている場合、心理的虐待との関連が見られた。 (朴ら,2012)

考察

- 父親が育児に積極的に関わっていると母親が認知している場合、母親の育児負担感が低く、幸福度が高い傾向が見られた。
- 子どもの健康や発達においても、良い影響を及ぼしている可能性が示唆された（例、怪我や肥満の予防、食事習慣など）。
- しかし、父親自身による育児の関わりの度合いは、母親の負担感などとは関連しない可能性も示唆された。

今後の研究の方向性

- 男性の育児休業取得の促進や、男性産後休暇の制度が整備されていく中で、男性の育児への関わりに対して、社会の関心がより高まると予想される。
- 今後、「父親の育児への関わりをどのように評価していくのか？」に関して、議論を深める必要がある。
 - 評価者（父親自身、母親、第三者等）
 - 子どもの年齢
 - 育児への関わりの側面（直接的な関わり、間接的な関わり）
 - 育児への関わりの量と質（質をどう評価するか？）

自己紹介

家庭環境・育児に関する研究をしております。
詳細は、下記のHPを御覧ください。

<https://researchmap.jp/0805/>

父親の育児への関わりに関する研究に興味がある方は、
ぜひ下記の連絡先にご連絡ください！

fmc@ncchd.go.jp

